

会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和7年4月24日(木)午前10時30分から正午まで
3 開催場所	ミライエ長岡5階 スタジオB
4 出席者名	(委 員) 三上委員長 水澤委員 並木委員 槇委員 (説明のために出席した関係者) 公立大学法人長岡造形大学 佐々木理事長 公立大学法人長岡造形大学 平山学長 公立大学法人長岡造形大学 安達副理事長 公立大学法人長岡造形大学 高橋事務局長 公立大学法人長岡造形大学 野上事務局次長 公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課長 公立大学法人長岡造形大学 三重堀財務課係長 (事務局) 長岡市地方創生推進部 五十嵐部長 長岡市政策企画課 中村課長 長岡市政策企画課 上村課長補佐 長岡市政策企画課 相川係長 長岡市政策企画課 浅野主査
5 欠席者名	草間委員
6 議事	第3期中期目標(素案)について
7 審議結果の概要	第3期中期目標(素案)について、各委員から発言があり、今後の原案づくりに反映させることとなった。

8 審議の内容	
事務局・政策企画課課長補佐	本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。 これより令和7年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会を開催いたします。はじめに五十嵐地方創生推進部長より御挨拶申し上げます。
事務局・地方創生推進部長	(部長挨拶)
事務局・政策企画課課長補佐	本日の評価委員会は、委員4名が出席されておりますので、長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることを御報告いたします。なお、このたびの評価委員会には長岡造形大学から佐々木理事長、平山学長、安達副理事長、高橋事務局長、野上事務局次長、事務局職員2名に出席いただいております。
事務局・政策企画課課長補佐	それでは、議事の進行を三上委員長にお願いしたいと思います。三上委員長、よろしくお願いいたします。
委員長	それでは、進行を務めさせていただきます。 議事を進める前に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。並木委員、槇委員のお二人にお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。 (並木委員、槇委員 了解)
委員長	それでは、議事を進めてまいります。 今回の議事は1件です。前回、令和6年度第4回の評価委員会において、市が作成した長岡造形大学第3期中期目標骨子案について、皆様から御意見をいただきました。今回は、それらを踏まえて市が作成した中期目標素案について、各委員に御意見を伺います。 それでは、議事について、事務局から説明をお願いします。
事務局・政策企画課長	(資料1～4により説明)

委員長	議事について説明していただきました。 委員の皆様から御質問等がありましたらお願いします。
委員	素案の前文に非常に危機感が表れていますが、これが現実だと思います。 1 点目になります。1 月に母校の大学の授業に参加する機会があり、教授が約 100 人の学生にプリントを区分して提出させていた様子を見て、デジタル化に対応できていないのかなという印象を受けました。 一方で、小学校では宿題がデジタルで送信される学校もあると聞きますので、大学と小学校が逆ではないかと思いました。 仕事においても営業職はやりとりをデジタル化していますし、プレゼンテーションもいかにデータを根拠にするかということでやっています。 そう考えますと、長岡造形大学も他の地方大学と差別化を図っていくには、デジタル化を推進していかないと遅れてしまうのではないかとこの危機感を感じました。相当の設備投資も必要かと思いますが、AI を含むコンピューターを活用するデザイン教育の場面でも必要かと思っています。こうしたことに対する教育の在り方を抜本的に見直していく必要があると強く感じました。 2 点目です。北海道の東川町では人口約 8,000 人から増えていると聞きます。有名建築家の事務所があったり、芸能人が移住したりもしているそうです。その東川町でサステナビリティの関係で活動されている慶応義塾大学大学院の特任教授は頻繁に学生を引き連れて全国の地域を回っているとお聞きします。長岡造形大学も既に取り組みれていると思いますが、地域に出て活動する教育をより積極的に進めていただきたいと改めて思いました。柱立ての「社会連携」の一環になると思います。 3 点目です。長岡造形大学にはサークルが多くあると思いますが、大学を訪れた際に学生が廊下で活動している姿を見ました。学生支援の観点から、サークルに部室などの集うような場所、それぞれがコミュニケーションを深められるような場所が必要なのではないかと思っています。 4 点目です。高大接続に関して、学力が満たない学生が入学してしまうことは問題かと思っています。推薦入学は 11 月に決定するなど、学生の取り方、その際の手続きが大きく変わっていて、またそれが問題になっている大学もあるとお聞きします。

	いかに優秀な学生を確保するかということを戦略的にもう一度見直すことも必要だと思いました。
委員長	確認ですが、資料3がベースで、参考資料として配布された第2期中期目標のような形が最終的なアウトプットと思えば良いのでしょうか。
事務局・地方創生推進部長	資料1「公立大学法人長岡造形大学第3期中期目標素案」をベースに委員の皆様の御意見等を踏まえて最終的な成果物を作成します。
学長	1点目のデジタル化についてです。本学の場合、デザイン学科を中心にデジタルが非常に大切になっていて、手作業が多い他学科においても避けては通れないと思っています。特にデザイン学科中心ではありますが、Adobeソフトを使わないと大学でも社会に出ても対応できないので、Adobeソフトを学生と教職員に無償提供しています。ライセンス契約も年々値上げされており、厳しい状況ではありますが、学生が使いこなして、自分が就きたい職業をしっかりと目指していただきたいという思いで無償提供を続けています。 また一方で、最終的なアウトプットでは紙などを使わなければならない部分もありますので、そこは併用しながら進めています。 2点目の御意見にありましたサステナビリティについてです。今は学生の意識が非常に高いです。建築・環境デザイン学科では、既存ストック、既存の建物、自然環境を含めた中で建築を考えようということで授業をしています。特に、学生が小さいときからジブリの世界観に触れながら育ってきており、共存可能な、持続可能な世界という観点を確実に持っているようです。そういう学生とサステナビリティを考えながら進めています。 3点目のサークル活動についてです。部室はあります。大きな音が出る軽音サークルにはスタジオもあり、その他の学生は、各教室で活動しています。サークルは吹奏楽、太鼓、紙漉き、裁縫など様々あります。廊下では、ガラスを鏡代わりにして踊る学生が日常的に活動していたり、体育館では運動系のサークルが活動していたりと、学生たちが場所を見つけながら活動しています。 4点目の高大接続についてです。他大学を見ても大学存続に非常に危機感を持っています。本学も10年後を見据えながら存続を考えて進めています。そうすると、本学に限らず、大学は学生の早期確保を考えるようになります。

委員	しかし、学力試験は2月から実施することになっているので、早期確保により学力が満たない学生が入学してしまう状況もあるように聞いています。本学では総合選抜、推薦入試においては、高校から提出される調書や学力試験ではない独自試験で適切に評価しています。 1点目です。資料1の素案について、前回の評価委員の意見が反映され、よくできていると思います。 2点目です。まず、他大学でも同様に中期目標を策定しているのでしょうか。私は当委員会に出席する際に、親として自分の子どもを安心して進学させられるかという観点で考えています。私は当委員会に出席するので、長岡造形大学が学生に寄り添って、またカリキュラムを工夫しながら、長岡市と共に大学運営に取り組まれていることをよくわかっていますが、例えば、学生の親御様にも中期目標が公開されていて、情報が得られているのでしょうか。 3点目です。私は当委員会の委員として、また他の仕事を通じてキャンパスを使用させていただく機会もあり、おそらく他の市民の方より長岡造形大学について知っていることが多いと思います。しかし、長岡造形大学と関わりのない市民の方にはまだ認知度が低いのではないかと思いますので、これまで以上に魅力を発信してほしいと思います。 4点目です。先ほどもデジタル化についての話もありましたが、仕事をしていてもデジタル化が進んでいると感じます。当委員会の資料もペーパーレスにしてもよいのではないのでしょうか。
委員長	2点目の御質問についてですが、現在、どの大学も6年ごとの中期目標、中期計画を策定しています。 ただ、御指摘のとおり学生の親御様には中期目標、中期計画レベルで何らかのコミュニケーションをとる機会はありませんかと思います。中期計画を具体化したもの、大学が当年度に注力する取組などを発信することはありますが、全体像を示している中期計画の形で説明する機会が少ないかと思います。
委員	大学のホームページを見るなど、親としても積極的に情報を得る姿勢が必要とは思いますが、ここまで中期目標や中期計画をしっかりと作っているということを知らせてもらえれば、より安心して子どもを送り出せると思います。

委員長	目標は目標として、それに向けて大学は努力しますので、努力した結果どのようなになったかということが親御様としては一番重要かもしれないですね。
委員	実際が取組がわかるだけでも、情報が得られて良いのかなと思います。中期目標素案に書かれたことが全て実現すれば素晴らしいと思います。
委員長	民間企業で考えますとミッション・ビジョンをホームページに掲載し、株主に伝えています。大学でそれに相当するものとしては中期目標、中期計画になるのでしょうか。中期目標を長岡市と大学の間のコミュニケーションだけでなく、他のステークホルダーの皆様にも伝わる形で出すことは必要かもしれないですね。
理事長	確かに民間企業であれば、I Rや計画、進捗状況などをホームページに掲載しますし、それを関係する株主の皆様にコミュニケーションする機会もありますので、御指摘のとおり、これを非常に大事なステークホルダーである学生の親御様、それから市民の皆様にとどのようにわかりやすい形でお伝えしていくかということは検討しなくてはいけないと思いました。
副理事長	現状、中期目標などはホームページに掲載しており、閲覧できるようになってはいますが、積極的にアピールしているとは言えないと思いますので、今後、具体的に検討していきたいと思います。
事務局・地方創生推進部長	4点目についてですが、長岡市もペーパーレスを推進しており、当市の各種審議会、会議体でもペーパーレスを進めているところです。今後は資料をデータで送付するなど極力ペーパーレスを図っていきたいと思います。
学長	2点目の御意見にありました「親として子どもを送り出したいかどうか」という視点について、改めて大切だと認識しましたので、今後さらに考えていきたいと思います。 常々、本学の教育を学生の親御様にお伝えしたいと思っておりまして、入学式や卒業式の式辞の中でお話させていただいています。もう1度内容を知りたいという御意見もいただいたので、この3月の卒業式から式辞をホームページにも掲載しました。式辞により、本学の理

委員	念や安心して送り出してくださいというメッセージが学生の親御様に伝わっていれば良いと思っています。 3点目の市民の方にもっと発信をということです。毎年1回は卒業修了研究展の広報をしています。駐車場が満車になるほど、御来場いただいていますので、一定の成果は生み出しているかと思います。 4点目のペーパーレス化については、学会の論文もデジタルでの提出になりましたし、学内の会議でもペーパーレス化が進んでいるところです。 1点目です。選ばれる大学を中長期的に実現していくことは大変なことだと思います。 長岡造形大学においては長岡市との連携、市の政策やまちづくりの方針に沿うよう対話しながら運営しており、長岡市の協力があることが前提ではありますが、選ばれる大学にならなければ、途端に志願者が減少してしまうということはあり得ると思います。そういう意味では、先ほども御意見がありましたように、まずは市民、そして県民から支持を得られることが大切なのではないかと思います。親御様から入学させたいと思われるとか、受験を促してもらえとかいうように広く認知度を高めるということです。 今ほど学長から御説明がありましたように、様々な場面で市民に開かれているということは一定程度知られているとは思いますが、長岡市も含めて、さらに様々な手段を使ってPRしていくべきではないかと思います。 就職面接試験の際にも感じたことですが、学生はホームページをよく読んでいます。パンフレットなども手に取ると思うのですが、やはりホームページなどのデジタルから情報を得ているようです。ですから、ファーマーインフォメーションと言いますか、掘り下げて情報を調べていけるような階層的なホームページの構成になっていると読んでもらいやすくなったり、また積極的に情報開示をしているということで好印象に受け止められるのではないかと思います。階層的な設定が技術的に難しい面もあるかもしれませんが、デジタル社会においては発信側の努力がこれまで以上に必要であり、様々なことについて様々な角度からの情報を盛り込んでおくということも一つ必要なのではないかと感じています。 2点目です。今後生き残るためのヒントになるかと思いますが、全国から学生が集まるということです。地方の20万人規模の都市の公立大学がこれだけ全国の学生から注目されているということを感じ
----	---

学長	大事にしてほしいと思います。もちろん情報発信をして受験生を確保し、志願倍率を維持することも大事ですが、在学生在がどのような進路に進むかということも大事だと思います。多くが卒業後に首都圏に就職してしまうことを大変もったいないと感じています。長岡造形大学も長岡市も地元就職の働きかけをしていて、それは一定程度あると思いますが、あまりそれだけにこだわるのではなく、元々住んでいた地方に戻って自分のまちで活躍する、地方の地力をつける人材を育成し、長岡市から送り出すということも良いのではないかと思います。首都圏に集中しすぎている状況が危ないとも思っていますので、やはり地方にどう地力をつけるかという意味でも、長岡造形大学にはそのポテンシャルがあるのではないかと思います。また、そうした人材が長岡市を第2のふるさととして感じてくれたり、様々な繋がりが生まれたりすることもあると思いますので、長期的な話としてはそのような視点も大事かと思っています。 3点目です。デジタル情報化は世界レベルでやらなければいけないことだと思います。投資が必要なことではありますが、常に最先端を追ってほしいと思います。 一方で、芸術分野は聴衆と演者がいて、そこで相対で生まれる空間は得難いものです。また、合唱などの市民活動を見ている、声を出して、その後仲間で食事をして、ということで高齢者本人のフレイル予防にもなりますし、実際に五感を使って社会活動をするということがデジタルと別にすごく大事なことだと思っています。デジタルは欠かせないものですので、大学はその最先端を学生に提供すると同時に、もの作りとか五感を使うことを大切にしてほしいと思います。デジタルが人間の肉体を超えていると感じることがあり、逆にデジタルから人間を保護するというような発想がないと、人間が人間らしく生きていけないのではないかと思います。特に長岡造形大学ではデザイン、造形をどう考えるかということが重要なカリキュラムのテーマであり、また本質的なテーマを扱う学問分野ですので、最先端のデジタルと併せて人間の五感を大切にする認識を持ち、それが大学の方針やメッセージとしても示せると良いのではないかと思います。 1点目の選ばれる大学に向けた情報公開についてです。10年後に18歳人口が減少する状況を踏まえて、日々考えています。卒業生から聞いた話ですが、高校生向けの情報口コミサイトで長岡造形大学が新潟県内大学の中で評価が一位だと教えてもらいました。その後、新潟県で1位、北陸でも1位になったということです。誇らしいという
-----------	---

委員長	より、学生たちがそのように大学を見てくれていることを非常にありがたいと思いました。その中でも施設設備はほぼ満点の評価でしたので、第4アトリエ棟を建てて、学生に使ってもらうことで学生に還元できていると感じることができました。この評価が日本中の高校生の目に触れるということですので、今伸ばしていけるところを伸ばしていくべきだということを再認識しました。 また、情報の公開については、卒業修了研究展も含めて公開していますが、まだまだ足りない部分もあると思っています。大学教育質保証センターの評価を受ける際には公開している情報で評価されますので、公開できる資料は公開しました。なるべく在校生含めて受験生にもわかりやすく積極的な情報公開を進めていきたいと思っています。 2点目の地方から地方へということについてです。本学の教員は授業で地域に出ていく意識を持っています。また、全国から様々な価値観を持った学生が集まり、共に学ぶことが良いことだと思っています。そして、卒業後には地方に帰る学生もいます。本学での地域協創演習等の際も、長岡を素材にしながら、おそらく自分の出身地域を思い浮かべながら、自分の地域であればこうしたいなどと考えていると思います。 また、首都圏に魅力を感じない学生も一定数いる中で、本学はそういう学生を受け止めていきたいと思っています。 3点目のデジタル化が進んでも最終的には人間性なのではないかということです。本学の理念は「造形を通して真の人間的豊かさを探究し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」です。デジタル化が進んでもデジタルはあくまで方法ですので、結局は、見る、聞く、触るなどの五感だと思います。最終的には人間的豊かさというものを本学の教育の中で目指していきたいと考えています。 1点目です。やはり8割の学生が県外出身ということが、素晴らしいことだと思います。それだけ選ばれる魅力があるということだと思います。それと公立大学としてのミッションの接点として、入学試験における地域との関わりと卒業時において地域における産業形成への関わりというように、入口と出口で地域と接点を持てると、学生の8割が県外出身者如何によらず、長岡造形大学の取組が地域にも見えて良いと思います。 また、他大学の話になりますが、県内高校はもちろん県外高校とも高大連携を進めており、県外の高校生からも新潟若者ビジネスアイデ
-----	--

	アコンテスト「Open Gate NIIGATA」に参加してもらい、非常に刺激を受けました。こうした刺激が入ることは効果があるということで連携を進めています。 地元の高校との連携、入試での優先枠等の地域への配慮、なおかつ卒業時に地域の産業形成に関わりを持つというようなパッケージをつくることができれば、8割が県外学生でも良いのではないかと思います。そういう地域社会への配慮が一つ必要かと思います。 2点目です。こういう時代だからこそ人間的豊かさを打ち出す。そうした理念を既に持っていますし、また、この理念はとてもわかりやすく良いと思います。SDGsも2040年以降はウェルビーイングになるという話もありますので、この理念は、人間としての思考空間、感覚にたどり着く、時代を先取りしているようなイメージで良いと思います。 また、安全に配慮して危険物を遠ざけていくと、結局人間の持つ力、五感が落ちてきます。マッチを擦れない、ナイフで鉛筆を削れない子どもが出てきたりします。ですから、道具を人間の能力を開花させる方向で使うということに関連づけたビジョンを提示されると納得感があるのではないかと思います。 3点目です。長岡のすごいところは、約25万人の都市に4大学1高专があり、しかもSTEAMの各分野が揃っていることです。日本中で他にないのではないのでしょうか。やはりこれはビジョンに出てきてほしいと思います。また、STEAM教育の観点から高校や他大学の理系の先生方もアートを学ぶ方が増えてもおもしろいのではないかと思います。 4点目です。地方独立行政法人法第78条第5項に定める指標（以下、指標）の設定をどうするかということです。言葉だけのビジョンだとわからない部分があります。例えば、「世界視野に入れた」についても、留学生比率をどのくらいに設定するかでだいぶ違ってくると思いますので、検討していただきたいと思います。
事務局・地方創生推進部長	指標は、中期目標策定後に法人で作成する中期計画で設定します。
委員長	中期目標には指標は含まれないということですね。わかりました。
事務局・政策企画課係長	また、中期計画の指標をベースに評価を行うことになります。

学長	1 点目の高大連携についてです。地元の高校との連携に関して、これから進めていく取組があります。
事務局長	県立高校の将来構想の中で、デザインなどを学ぶ特色ある普通高校を設置する計画があり、今後意見交換をしていく予定です。 県立高校は今後 10 年で統合が進む予定で、特色ある高校のモデルケースとして話が出ているものです。 デザインを学ぶ地域の大学として、何かしらの形で連携できればと考えています。
学長	2 点目の本学の理念についてです。理念について入学式と卒業式では話をしますが、すぐには理解できないかもしれません。しかし大学生活をとおして、学生たちに考えていただきたいと思い、伝えています。 4 点目の御意見にありました留学生についてです。資源が限られている中ではありますが、留学生比率を上げたいと思っています。また、本学から海外に留学を希望する学生は確実に増えており、国際交流事業支援奨学金の予算をこの 2 年間で増額して支援をしています。
理事長	デジタルはあくまでツールであり、目的ではありません。そのツールをいかに使いこなした上で、その人の持っているものをどう表現するかということが非常に重要だと思いますので、本学のカリキュラム、教育の中でそういうことができる人材を社会に輩出し続けていきたいと考えており、現在、形になっていると思います。 また、指標の設定については、今後策定する中期計画の中で、中期目標の本質的な部分、非常に重要な部分の指標をいくつか定め、数値で示していきたいと考えています。
事務局・地方創生推進部長	毎年、入学者の 8 割、約 200 人が長岡市外から来ていただいていることが素晴らしく、ありがたいことだと思っていますし、長岡市民にとっても刺激になると思っています。また、全国から集まってきた学生が貴重な青春時代を長岡で過ごし、長岡を第 2 のふるさととして感じていただけることを嬉しく思います。 ただ、地元の長岡市民から見ると、公立化をして全国から学生が集まる素晴らしい大学に、もう少し市民の門戸が開かれてほしいという思いと、また人手不足の中で地元の産業界からも優秀な人材が、ぜ

委員長	ひ長岡に留まってほしいというお声をいただきますので、そうしたことが中期目標にも含まれています。 しかし一方で、米百俵のまち長岡ですので、日本のため世界のため世界で活躍していただく、また地元に戻って、地元の地域課題に対して長岡で学んだことを地域に活かしていただくということも重要な視点かと思います。両立がなかなか難しい部分でもありますが、御議論いただいたとおりでと思いましたので、そのような形で進めさせていただきたいと思います。 また、再度確認になりますが、資料N o. 1 の中期目標素案をベースに御議論いただきましたので、本日いただいた御意見を資料N o. 1 に盛り込んでいきます。参考資料としてお渡ししている第2 期中期目標からボリュームは減っておりますが、必要な内容は網羅し、前回の評価委員会で御議論いただいたとおりの構成としているものですので御承知おきいただければと思います。 わかりました。 それでは、時間になりましたので、委員の皆様の意見をもとに事務局で中期目標素案を修正いただき、原案を作成していただきたいと思います。 それでは、これで議事を終了いたします。議事の進行に御協力をいただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。
事務局・政策企画課課長補佐	三上委員長ありがとうございました。 第3 その他としまして、次回の評価委員会について、事務局から御連絡いたします。
事務局・政策企画課長	(次回会議日程について説明)
事務局・政策企画課課長補佐	それでは、これで「令和7 年度第1 回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。 ありがとうございました。

上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。

委 員

委 員

9 会議資料

- 次第・出席者名簿
- 資料1 公立大学法人長岡造形大学第3期中期目標素案
- 資料2 第3期中期目標の策定について
- 資料3 長岡造形大学 第3期中期目標のポイント
- 資料4 第3期中期目標骨子案に対する主な委員意見
- 参考資料 第2期中期目標